



ショートコメント

★★★

Data 2022-6

監督・脚本：阪本順治
出演：豊川悦司／安藤政信／
風祭ゆき／本田博太
郎／片山友希／田村
泰二郎／山本浩司／
吉澤健

弟とアンドロイドと僕

2020年／日本映画
配給：キノシネマ／94分

2022（令和4）年1月11日鑑賞

シネ・リープル梅田

みどころ

阪本順治監督最新の完全オリジナル作品で、トヨエツこと豊川悦司が主演、しかも『弟とアンドロイドと僕』と題された、面白そうな本作は必見！

そう思ったが、第71回ベルリン国際映画祭で銀熊賞（最優秀俳優賞）を受賞した『アイム・ユア・マン 恋人はアンドロイド』（21年）と比べると、その出来の差は？

いくらコロナ禍の日本社会が暗いといっても、ここまで陰鬱な（？）「アンドロイドもの」に固執しなくてもよかったのでは・・・？

—— * —— * —— * —— * —— * —— * —— * —— * —— * ——

◆阪本順治監督最新の完全オリジナル作品は、“究極の孤独”をテーマとし、豊川悦司を主人公に据えたもの。ロボット工学専攻の学者、桐生薫（豊川悦司）は1人で洋館に住み、奇妙な研究を続けていたが、なぜ彼はこんなに孤独なの？また、あの奇妙な片足跳び（ケンケン跳び）は一体ナニ？

◆黒板一面に数式を書き殴り続けた挙句、「字が汚くてごめんなさい」と学生に謝るだけの桐生の授業は一体ナニ？今の大学では、いかに優秀でもこんなに偏ったロボット工学教授を養う余裕はないはずだ。

他方、彼が住む洋館は元 父親の産婦人科医院だったが、そこには時々、異母弟の山下求（安藤政信）が訪れ、桐生との対話が展開される。また、求の母親・春江（風祭ゆき）や、偶然知り合った少女（片山友希）が時々登場し、桐生とのさまざまな接点を持つが、そこにはセリフがほとんどない。したがって、本作のストーリーはとにかくわかりづらい。

◆雨のシーンが多いのは、私の大好きな塚本晋也監督の『ASNAKE OF JUNE 六月の蛇』（02年）（『シネマ3』359頁）と同じだが、美しい映像が際立っていた同作とは対照的に、黒を基調とした本作の映像は、ただただ暗く陰鬱だ。とりわけ、桐生がいつも屋外

で着ている黒のフード付きレインコートが目立つが、その不気味さは・・・？

◆桐生の研究テーマは自分そっくりのアンドロイドの完成だが、その動機は一体ナニ？それはどうも、自分の姿が鏡に映らないためらしいが、そんなことって現実的にあり得るの？他方、桐生と孤独な少女が、何も言葉を交わさないのに心が通じ合っている(?)のは一体なぜ？それは、この少女も自分の姿が鏡に映らないという共通点を持つためらしいが、そんなバカな・・・!?

◆阪本順治監督の演出の巧みさもあって、94分のストーリー展開は緊張感一杯だが、残念ながら館内の観客は10名にも満たない。山根貞男氏(映画評論家)の新聞紙評に「不気味さ、滑稽感 不均衡の妙」と書いてあった通りの出来だが、これでは大ヒットはとてもとても……。ちなみに、同時期に公開される、ドイツの“アンドロイドもの”『アイム・ユア・マン 恋人はアンドロイド』との対比は如何に？

2022(令和4)年1月13日記